

GMBは創業70周年を
迎えました。
皆様の温かいご支援に対して
心より御礼申し上げます。

GMB

70th
Anniversary

GMB 株式会社

2014年3月期第2四半期 決算説明会資料

2013年11月20日・21日



(電動ウォーターポンプ)

証券コード 7214

<http://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。



・ 2014年3月期上期実績

・ 2014年3月期通期見通

・ 今後の対応

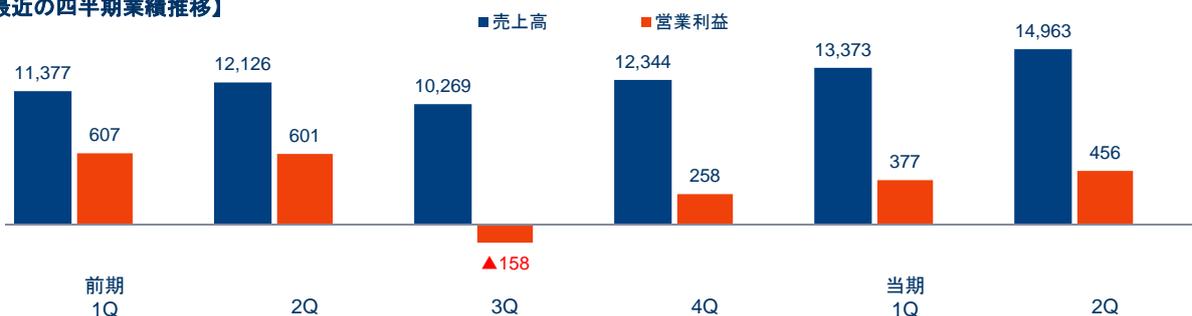
2014年3月期1-2Q 損益実績



(単位:百万円・%)

	前期1-2Q累計		当期1-2Q累計		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	23,504	(100.0%)	28,336	(100.0%)	4,831	+20.6
売上総利益	3,936	(16.7%)	4,570	(16.1%)	634	+16.1
営業利益	1,208	(5.1%)	833	(2.9%)	▲ 374	▲ 31.0
経常利益	1,040	(4.4%)	1,193	(4.2%)	153	+14.7
純利益	442	(1.9%)	482	(1.7%)	39	+8.8
EPS(円)	84.86		92.53		—	—

【最近の四半期業績推移】

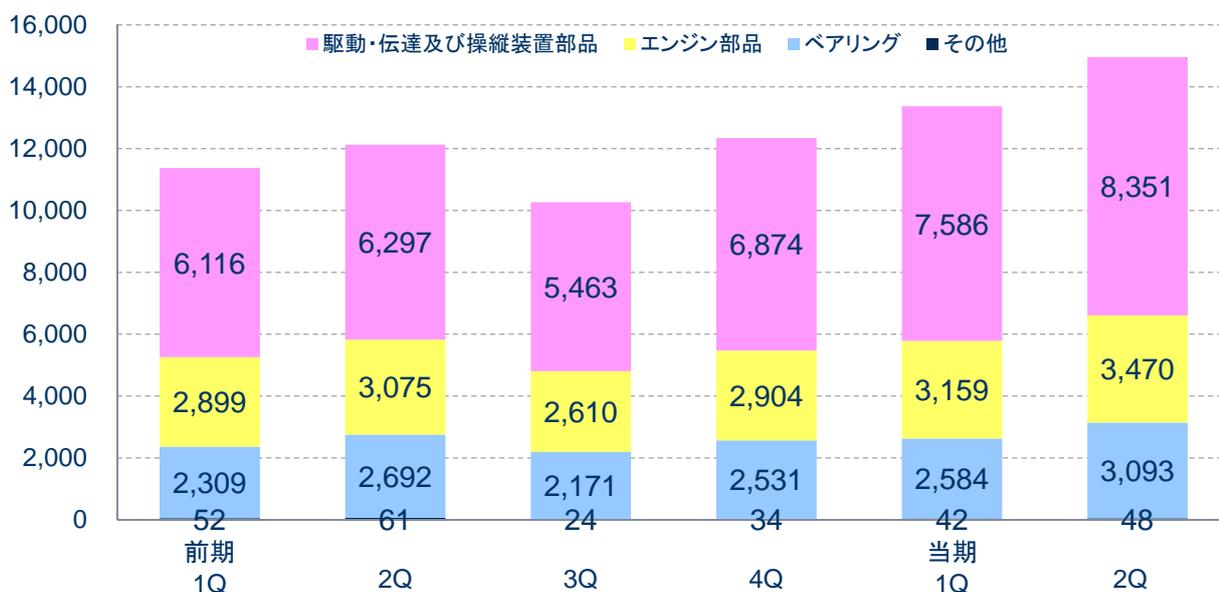


- 3 -

売上高の品目分類別推移 (四半期毎)



(単位:百万円)



韓国新車用においてバルブスプールなどAT部品や等速ジョイントの販売が引き続き順調に推移するとともに、欧州向けユニバーサルジョイントや海外補修用のウォーターポンプやテンショナー・アイドラー・ベアリングの販売が回復。

- 4 -

セグメント情報 日本・米国（四半期毎）

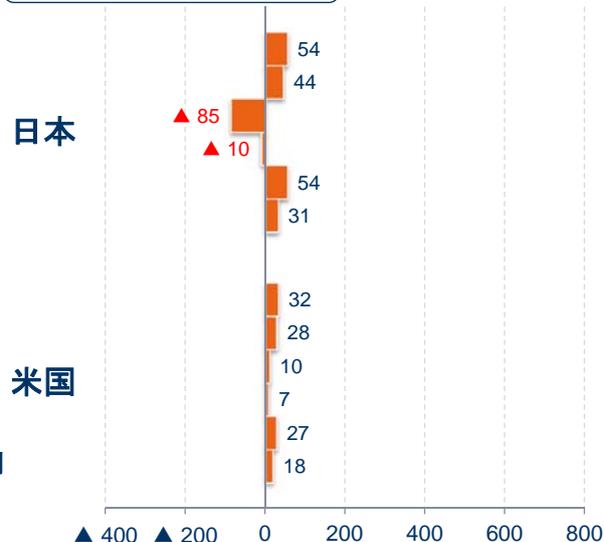


外部売上高



セグメント利益

(単位:百万円)



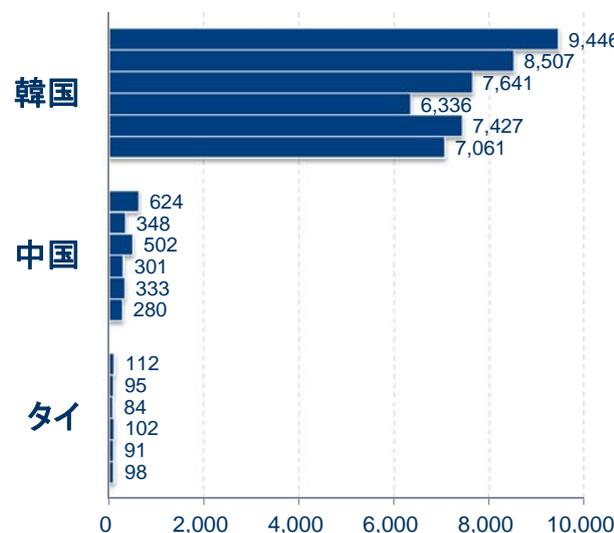
セグメントは拠点の所在国別

日本は、円高修正とともに前期3Qをボトムに販売回復するも輸入コストも上昇し、生産量に対して固定費が高止まり利益改善は限定的。米国は、テンショナー・アイドラー・ベアリングの販売回復により、売上高・営業利益とも前年同期比増加。

セグメント情報 韓国・中国・タイ（四半期毎）

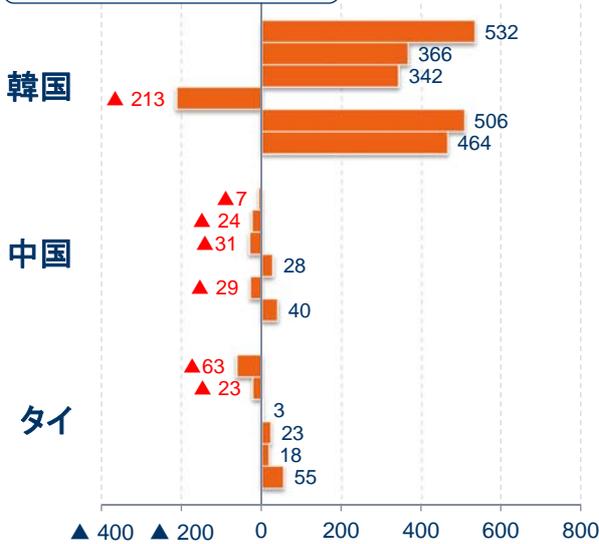


外部売上高



セグメント利益

(単位:百万円)

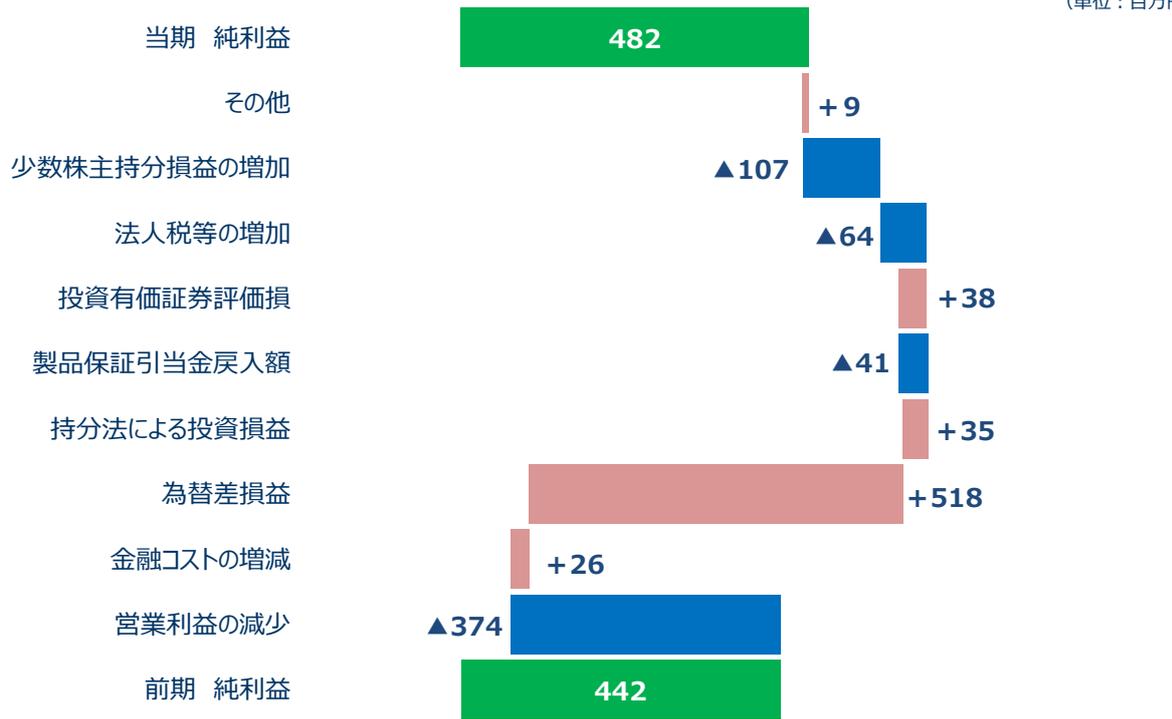


韓国は、バルブスプール、等速ジョイントなど新車用部品の販売が順調に推移するも、人件費の前倒計上や償却費、研究開発費増加で営業利益は前期比僅かに減少。中国は生産量の改善とコストダウンによって、人件費や経費の増加を吸収できず赤字継続。タイは、補修用ウォーターポンプの生産回復のずれ込みと、パーツ高による輸出採算の悪化が想定以上となり、赤字へ。

営業利益以下の増減要因 (1-2Q)



(単位：百万円)



キャッシュ・フローの実績 (1-2Q)



	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	1,356	1,747	+ 390
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 1,793	▲ 1,660	+ 132
財務活動によるキャッシュフロー	294	606	+ 312
フリーキャッシュフロー	▲ 437	86	+ 523

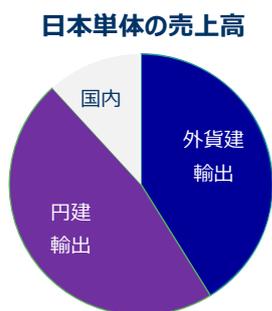


【 当期の主な内訳 】

- 営業CF
 - 税金等調整前利益 1,202 百万円
 - 減価償却費 1,375
 - 売上債権の増加 ▲764
 - たな卸資産の増加 ▲406
 - 仕入債務の増加 702
 - 為替差益 ▲430
- 投資CF
 - 設備投資 ▲1,587
 - 韓国子会社株式取得 ▲75
- 財務CF
 - 借入金の増加 908
 - 配当金の支払額 ▲104

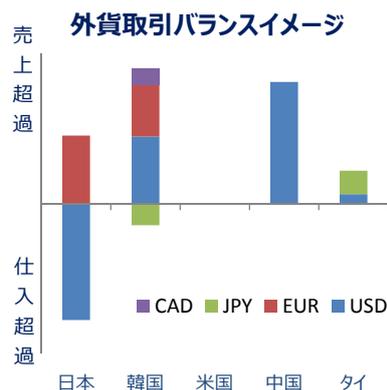
① 輸出競争力の販売への影響

- ・日本単体90%輸出
- ・円建・外貨建がおおよそ半々
- ・韓国にとってのウォン安メリット



② 外貨取引決済は所在国通貨の影響を受ける

- ・拠点別各取引通貨売上・仕入バランスに対する現地通貨変動



③ 連結決算処理上の円換算の影響

- ・海外子会社単体利益 × 円換算レート変動



・ 2014年3月期上期実績

・ 2014年3月期通期見通

・ 今後の対応

2014年3月期 損益計画



(単位:百万円・%)

	FY2012 (通期実績)	FY2013			前期比
		(1Q-2Q実績)	(3Q-4Q計画)	(通期計画)	
売上高	46,119 (100.0%)	28,336 (100.0%)	30,163 (100.0%)	58,500 (100.0%)	+26.8%
営業利益	1,308 (2.8%)	833 (2.9%)	1,066 (3.5%)	1,900 (3.2%)	+45.3%
経常利益	1,483 (3.2%)	1,193 (4.2%)	856 (2.8%)	2,050 (3.5%)	+38.2%
当期純利益	416 (0.9%)	482 (1.7%)	367 (1.2%)	850 (1.5%)	+104.1%
EPS (円)	79.90	92.53	-	163.10	

【最近の5年間の業績推移】

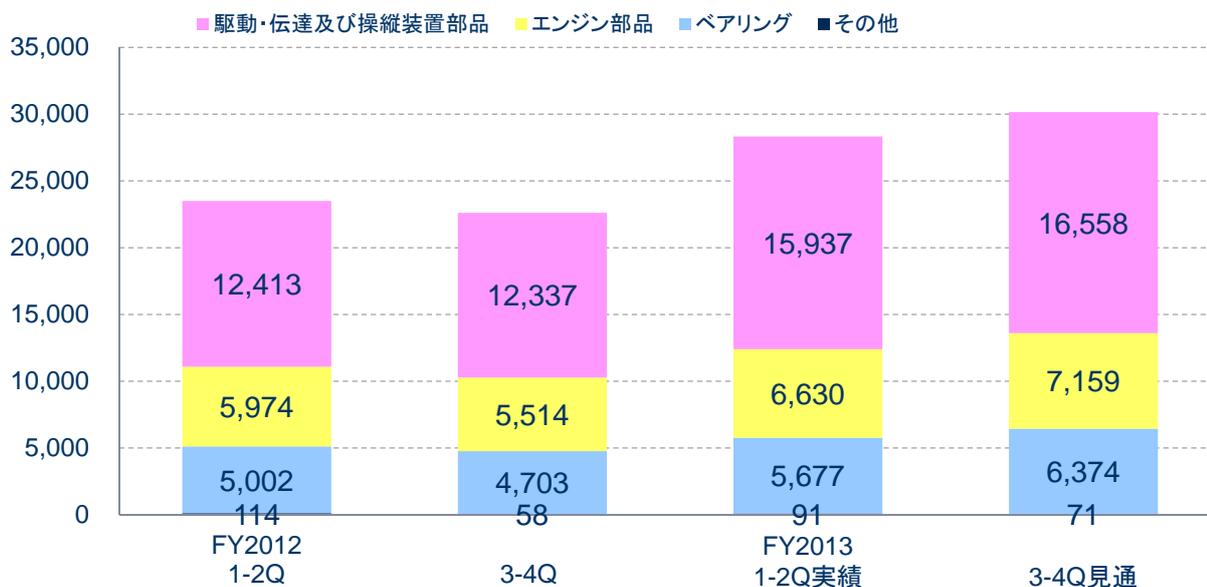


-11-

売上高の品目分類別計画 (半期毎)



(単位:百万円)



上期同様に円安が輸出競争力の改善と海外子会社売上の円換算として増加に寄与。駆動系は新車用バルブスプールやユニバーサルジョイントが増加。エンジン部品は上期に比べ新車用でウォーターポンプの増加。ベアリングは、テンショナー・アイドル・ベアリング、外注製品の補修用市場での販売拡販を見込む。

-12-

セグメント計画 日本・米国（半期毎）

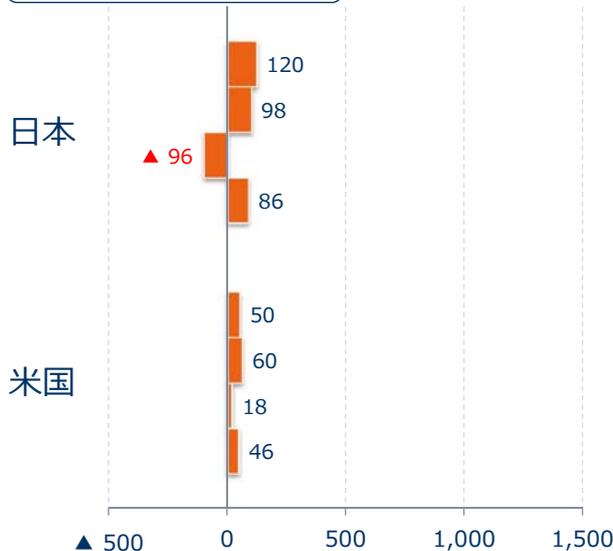


外部売上高



セグメント利益

(単位：百万円)

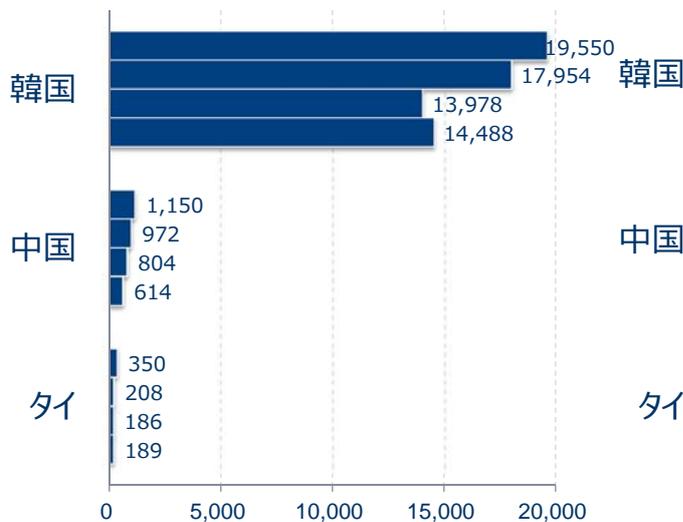


日本は、海外補修用部品や欧州新車用部品の販売増加と生産移管後の合理化効果による採算改善を見込む。上期の品質対応コストは下期発生しないが、輸入仕入コストも上昇し利益改善は限定的と試算。米国は、下期ウォーターポンプの販売増加を見込むが経費増もあり、利益は横ばい。

セグメント計画 韓国・中国・タイ（半期毎）

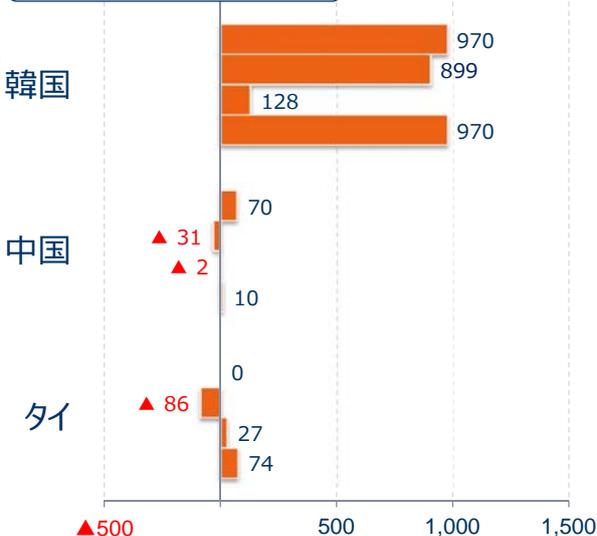


外部売上高



セグメント利益

(単位：百万円)



韓国は、引き続き新車用部品販売が順調に推移することに加え、さらに円安ウォン高傾向にあるため円換算の影響で売上増。売上増加とコスト削減で、固定費増加を吸収。人件費の上期前倒計上の影響で、前下期対比大幅に利益改善。中国・タイの生産拠点は販売価格の改善と生産効率化を進めコスト削減を図ることで、下期黒字化を計画。

設備投資・減価償却費



(単位：億円)

設備投資・減価償却費の推移



FY2013 設備投資計画の内訳

	投資額 (期初)	主な内容
日本	6.5	維持・合理化
韓国	20.0 (18.0)	工場増築・増産対応・新規開発・更新 等
中国	8.5 (7.0)	増産対応・合理化
タイ	2.5	生産移管対応
計	37.5 (34.0)	

- 15 -



・ 2014年3月期上期実績

・ 2014年3月期通期見通

・ 今後の対応

■ 新車用需要は新興国で拡大継続

- 韓国車の販売拡大スピード一巡するも新興国需要は依然強い
- 中国国内には依然としてビジネスチャンスあり

■ 補修用部品は先進国で競争激化

- 米国大手チェーンストアの合従連衡
- 欧州市場も品揃えに加えて、低価格・短納期のニーズ拡大

■ 海外拠点の人件費上昇 & 人材の確保

- 17 -

今後の対応

■ 積極投資による規模拡大

- 新興国への拠点展開の積極化

■ 営業力強化へ向けた技術営業への取組

- 新車用部品の製品開発・本社組織改正 & 人材補強

■ 電気自動車、軽量化への対応

- 電動ウォーターポンプの販路拡大に向けて

■ 顧客ニーズにあった補修用部品の供給体制強化

- 顧客ニーズに価格・品質を最適化した品揃え強化
- 納期改善へ向けた取組

- 18 -

積極投資による規模拡大



韓国新拠点設立

- 4月 AG TECH CORP. 設立
- ウォーターポンプ生産拠点
電気化対応技術の蓄積

中国現地供給体制拡充

- A T 部品生産能力拡充
- 高まる現地納入ニーズへの対応

タイ合併事業の拡大

- 日系の生産拡大に伴う能力拡大
- 本業ビジネスへの波及効果



韓国ソウル研究所新設

- 大手 R & D 拠点集積地
- 環境対応など先端技術開発
- 優秀な人材の確保

中国 3 番目の製造拠点

- 現代 G 向け現地納入体制の拡充
- 南部 & 外資系との取引拡大へ

インド販売拠点設立

- 将来的な現地生産も視野に
販売・調査拠点設立

19



- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

＜お問い合わせ先＞
G M B 株式会社 経営管理室
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp